

宮城県黒川高等学校同窓会報

発行所

黒川高等学校同窓会

〒981-3685 宮城県黒川郡

大和町吉岡字東柴崎62

TEL 022-345-2171

FAX 022-345-2172

編集 同窓会事務局

印刷 株式会社セイトウ社



母校に期待

黒川高等学校同窓会

会長 山路 義明

同窓生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

母校は今年で創立一六六周年を迎えました。長い間、郡内で唯一の高校として幾多の有為な人材の育成に寄与してまいりました。郡内はもとより、県内の多くの職場で同窓生が活躍しております。

最近では中核工業団地に最も近い高校として注目度もアップし、マスコミに登場する機会も多くなっております。

卒業後の進学、就職の状況については、その内容が年々充実してきたと感じております。

部活動等についても、最近では毎年全国大会に出場しているロボット研究部や陸上部、その他にもテニス部、ウエイトリフティング部等の活躍も目覚ましいものがあります。今後とも後輩達の活躍をご期待ください。

同窓会活動の原動力である支部活動につきましても、多くの支部等で総会を開催するなど積極的に活動して頂いております事に感謝を申し上げます。

今後とも同窓生の皆様方には、母校の更なる発展と後輩達の活躍の為に、尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

◎最後に母校に関する「一口メモ」！

①開校は一九〇一年

非常に覚えやすいです

②クラスのホームはいくつから

創立五〇周年を迎えた、一九五〇年から始まったそうです。ホームは当初農業科でしたが、現在は普通科です。



創立記念行事

校長 金 和 宏

同窓生の皆様には、日頃より母校に対して温かい御支援と御協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

本校は平成二二年度からの学科改革により、各学年とも普通科二・三級、専門学科四級級(機械科二・電子工学科一・環境技術科一)となりました。現在約六七〇名の生徒が落ち着いた教育環境のもとで、明るく元気に学習や部活動に取り組んでいます。

さて、赴任以来、四月三日の創立記念日に際して、生徒に黒川の沿革について伝える機会を持ちたいと考えておりました。今年度、「創立記念行事」として全校放送により、生徒に黒川の歴史と伝統について伝え、共有することができました。この場をお借りして、同窓生の皆様にその一部をご紹介します。

《前文省略》、

昭和二二年二月に校舎が全焼し、廃校の危機に直面しましたが、郡内有志の方々が「黒川農学校復興委員会」を立ち上げ、地域が一丸となって再建に協力し、三年後の開校五〇周年の時に新校舎落成にこぎつきました。この間、昭和二三年には

「ホームだったのですか?」と尋ねてみてください。きつと、昔のことを懐かしんで当時の様子を喜んでお話しくださるものと思います。

本校卒業生はこれまでに一万九千名を超え、地元黒川郡内はもとより県内、そして全国各地で活躍しています。黒川農学校として開校して以来、「豊かな自然と肥沃な大地に恵まれた黒川の地の開拓と振興を担う学校」として歩んできましたが、その精神は校訓の「公正・友愛・開拓」に今なお受け継がれ、これからも発展していくものと考えています。一つ目の「公正」とは「自分の行動に責任を持ち、人に迷惑をかけること」です。二つ目の「友愛」は「よき友人を作って互いに切磋琢磨し、より良い高校生活を築くこと」です。そして、三つ目の「開拓」は「自分が何をすべきか考え、チャレンジしていくこと」です。これらのことを改めて心に刻んでください。《以下省略》

時間にして一〇分足らずの内容でしたが、先人たちの思いや教えに触れて本校の伝統や文化を理解することで、母校愛が高まることを期待しています。

同窓生の皆様には、今後とも後輩たちへのお力添えをよろしくお願いいたします。

平成28年度 評 議 員 会

議題

- (一) 平成二七年度事業報告並びに収支決算報告について
- (二) 平成二八年度事業計画並びに収支予算(案)について
- (三) その他

本部役員は次のとおりです

- 会長 山路 義明 (S四一年卒大衡支部)
- 副会長 大友 勝衛 (S四二年卒落合支部)
- 副会長 堀籠日出子 (S四三年卒吉田支部)
- 監事 相澤 栄 (S三七年卒富谷支部)
- 監事 山田耕一郎 (S四〇年卒吉岡支部)
- 監事 渡辺 政志 (S四三年卒大谷支部)
- 監事 藤倉 知格 (S四六年卒眞議議員)
- 顧問 佐々木末治 (S三一年卒前会長)
- 顧問 小田嶋 修 (元校長)
- 顧問 倉光 恭三 (元校長)
- 顧問 阿部 恒幸 (前校長)
- 参与 金 和宏 (母校校長)
- 参与 丸山 英臣 (事務局長)

支部等は次のとおりです

- 東京同窓会、栃木県人会、仙台支部、吉岡支部、大衡支部、吉田支部、落合支部、鶴巣支部、富床支部、富谷支部、粕川支部、大谷支部、大沢支部、利府支部、松島支部、多賀城七ヶ浜支部

平成27年度 収支決算報告書

自：平成27年4月1日
至：平成28年3月31日
(単位：円)

◎収入の部

項 目	予算額	決算額	比較増減	付 記
1 会 費	2,016,000	2,016,000	0	
1) 終身会費	2,016,000	2,016,000	0	生徒数672名
2 繰 越 金	431,585	431,585	0	
3 雑 収 入	4,415	38,387	33,972	利息、第9回卒業生同級会寄贈
収入合計	2,452,000	2,485,972	33,972	

◎支出の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	比較増減	付 記
1 事務諸費	250,000	164,446	△ 85,554	
1) 需 要 費	70,000	99,634	29,634	はがき、切手、会報送料他
2) 旅 費	180,000	64,812	△ 115,188	支部総会旅費
2 会 議 費	110,000	41,266	△ 68,734	
1) 総 会 費	70,000	15,566	△ 54,434	総会(懇親会)
2) 役員会費	40,000	25,700	△ 14,300	役員会費、湯茶代
3 事 業 費	810,000	528,660	△ 281,340	
1) 支部助成費	300,000	250,000	△ 50,000	各支部への助成金
2) 事業諸費	200,000	164,160	△ 35,840	同窓会会報発行
3) 渉 外 費	10,000	9,500	△ 500	卒業アルバム
4) 学校(生徒)助成	300,000	105,000	△ 195,000	東北大会、全国大会助成 資格取得助成(生徒4名に助成)
4 敬 愛 費	260,000	174,958	△ 85,042	
1) 歓 迎 費	160,000	144,958	△ 15,042	卒業生証書入れホルダー
2) 慶 弔 費	100,000	30,000	△ 70,000	支部総会御祝儀
5 負 担 金	5,000	5,000	0	産業教育振興協会負担金
6 マイクロバス維持費	600,000	600,000	0	マイクロバス維持費助成
7 財源積立金	400,000	450,000	50,000	
8 予 備 費	17,000	0	△ 17,000	
支出合計	2,452,000	1,964,330	△ 487,670	

収入合計2,485,972-支出合計1,964,330=差引き残額521,642(次年度へ繰り越し)

平成28年度 収支予算書 (単位：円)

収 入 合 計	支 出 合 計	差 引
2,542,000	2,542,000	0

※但し科目間の流用を認めるものとする。

平成27年度 同窓会事業報告

月 日(曜)	事 業 内 容	場 所
4月8日(木)	入学式	黒川高校 体育館
5月30日(土)	落合支部総会	女川 華夕美
31日(日)	東京同窓会総会	京王プラザホテル
6月13日(土)	学校助成(陸上部東北大会出場～6/16)	福島 あづま陸上競技場
13日(土)	評議員会	黒川高校 同窓会館
27日(土)	学校助成(テニス部東北大会出場～6/29)	福島県 会津若松市
7月17日(金)	大衡支部より学校助成	黒川高校 校長室
26日(日)	吉田支部総会	遠藤旅館
8月8日(土)	同窓会総会	グランダイニング オオサカ
30日(日)	大衡支部総会	てつ兵衛大衡店
9月26日(土)	学校助成(陸上部東北新人大大会出場～9/28)	青森県総合運動公園
27日(日)	多賀城・七ヶ浜支部総会	多賀城市中央公民館
10月2日(金)	学校助成(陸上部国体出場～10/6)	和歌山県 和歌山市
15日(木)	第9回卒業生同級会より寄贈	黒川高校 校長室
25日(日)	学校助成(電子機械研究部東北大会出場)	新青森県総合運動公園
31日(土)	学校助成(電子機械研究部全国大会出場～11/1)	三重県営総合競技場
11月20日(金)	仙台支部総会	ホテル白萩
22日(日)	学校助成(電子機械研究部全国大会出場)	埼玉 ものつくり大学
25日(木)	吉岡支部総会	遠藤旅館
12月10日(木)	同窓会報 第59号発行	印刷：セイトウ社
2月29日(月)	同窓会入会式	黒川高校 体育館
29日(月)	資格取得奨励賞贈呈(4名へ助成)	黒川高校 体育館
3月1日(日)	卒業式	黒川高校 体育館
6日(日)	利府支部総会	利府町役場 町民交流館
28日(月)	監査・役員会	黒川高校 同窓会館

六月一八日(土)午後二時より同窓会評議員会が大和町内のグランダイニング オオサカに於いて、母校より金と宏校長、大槻浩義教頭、鈴木仁事務室長に出席していただき開催されました。始めに山路同窓会長より挨拶があり、続いて金校長より母校の近況報告を兼ねたご祝辞を頂きました。会則にしたがって、山路会長が議長となり、事務局より事業報告・会計報告、監事より監査報告があり、全ての議案が満場一致で承認されました。

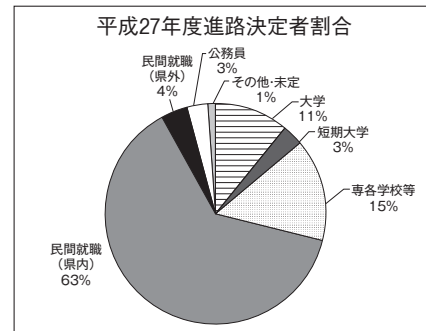
た。その他として事務局より同窓会報の配付が困難になってきている支部が複数あり、他校で行われている配付方法が紹介され、支部総会等で話題としてほしいと依頼がありました。続いて、堀籠副会長の乾杯の発声で懇親会が始まりました。終始和やかな雰囲気の中で会は進み、昔懐かしい高校時代の話や最近の黒高生の変化等、話題は尽きることなく、大いに盛り上がりました。母校黒川高校の益々の発展を祈りながら散会しました。



平成27年度卒業生の進路状況と28年度の決定状況

1) 進路一覧(過去3年間、平成28年度は11月17日現在の進路決定状況です。)

進路\卒業年	平成26年	平成27年	平成28年
大学	25	25	22
短期大学	8	7	4
専各学校等	32	33	25
民間就職(県内)	118	138	128
民間就職(県外)	6	9	6
公務員	6	6	9
その他・未定	6	1	22
卒業生計	201	219	216



2) 主な進路先(平成27年3月卒業生) ※ ()内は人数 (1)は省略

- ＜私立大学＞ **県内**…東北学院大学(6)、宮城学院女子大学(6)、東北文化学園大学(4)、尚絅学院大学(2)、仙台白百合女子大学、石巻専修大学
県外…東北芸術工科大学、大正大学、青森中央学院大学、日本大学(通信制)
- ＜短大＞ 聖和学園短期大学(4)、東北生活文化大学短期大学部(3)、宮城誠真短期大学
- ＜専修各種学校＞…仙台幼児保育専門学校(3)、仙台理容美容専門学校(2)、赤門鍼灸柔整専門学校、花壇自動車大学校、仙台リハビリテーション専門学校、東北電子専門学校 他
- ＜就職＞ **公務員**…宮城県職員(土木)大衡村役場(初級土木)、国家公務員(技術 東北<土木>)自衛隊(3)
管内…トヨタ紡織東北(5)、あさひな農業協同組合(3)、トヨタ自動車東日本(2)、中央精機東北(2)、プライムアースEVエナジー(2)、フジ・コーポレーション(3)、コバヤシ(3)、日進工具(2)
 東北計器工業(2)、永楽会、河北ランド富谷カントリークラブ、東洋刃物、東洋環境開発、アイシン高丘東北 等
県内…お茶の井ヶ田(2)、金沢村田製作所(2)、東北電力(2)、ケディカ、トークス、トラスコ中山、高速、ワールドストアパートナーズ、陽光ビルサービス
県外…三菱自動車工業、IHI相馬事業所、日立オートモティブ

3) 現3学年の主な進路先(平成28年12月1日現在)

- ＜公立大学＞ **県外**…会津大学
- ＜私立大学＞ **県内**…東北学院大学(5)、宮城学院女子大学(4)、東北工業大学(3)、東北文化学園大学(4)
 東北生活文化大学、仙台大学、尚絅学院大学、石巻専修大学
県外…愛知工業大学
- ＜短大＞ **県内**…聖和学園短期大学(2)、仙台青葉学院短期大学
県外…会津大学短期大学部(公立)
- ＜専修各種学校＞…仙台高等技術専門校、花壇自動車大学校、仙台理容美容専門学校他
- ＜就職＞ **公務員**…宮城県職員(学校事務)、自衛隊(7)
管内…トヨタ自動車東日本(4)、トヨタ紡織東北(2)、アイシン高丘東北、中央精機東北
 トヨタカローラ宮城、プライムアースEVエナジー(2)、日進工具、東洋刃物、THKインテックス、コバヤシ(3)、タツタ電線(2)、河北ランド富谷カントリークラブ、日本トーカンパッケージ仙台工場、白石食品工業(5)、永楽会(4)、あさひな農業協同組合、グリーンテック宮城営業所(2)、フジ・コーポレーション(4)、東北計器工業
県内…アイリスオオヤマ(5)、東北電力(4)、金沢村田製作所(3)、アルプス電気古川工場(3)、東北大蔵電気(4)、お茶の井ヶ田(3)、いすゞ自動車東北(2)、東北送配電サービス
県外…パナソニック産機システムズ(2)、敷島製パン、きぬ川ホテル三日月

2016 高校総体結果報告

○野球部

第98回全国高等学校野球選手権宮城大会
 2回戦 黒川 3 - 2 仙台南
 3回戦 黒川 1 - 4 東北学院榴ヶ岡

○サッカー部

大崎地区予選
 順位決定戦 黒川 1 - 7 古川工業
 黒川 0 - 2 古川
 地区大会 4位 予選敗退

○山岳部

男子 第4位

○バドミントン部

男子ダブルス 2回戦敗退
 男子シングルス 2回戦敗退
 男子団体戦 1回戦 黒川 0 - 3 仙台
 女子ダブルス 3回戦敗退
 女子シングルス 3回戦敗退
 女子団体戦 1回戦 黒川 0 - 3 迫桜

○卓球部

男子団体 ベスト16

○柔道部

男子個人戦
 60kg級 初戦敗退
 66kg級 初戦敗退
 100kg級 初戦敗退

○剣道部

男子個人戦 初戦敗退

○空手道部

男子団体組手 ベスト8
 男子個人形 高橋直輝 ベスト16
 男子個人組手 出場

○陸上競技部

ハンマー投 第2位 遠藤翔太 東北大会出場

○バレーボール部

男子
 県総体 ベスト16
 国体予選 ベスト8
 春高バレー県予選 ベスト8
 女子
 県総体 2回戦

○バスケットボール部

仙塩地区予選
 最終代表決定戦 黒川 59 - 74 仙台工業

○ソフトボール部

黒川 0 - 15 石巻桜坂

○テニス部

男子団体 2回戦敗退
 男子ダブルス 辻本悠貴・藤枝 悟 ベスト16
 女子団体 1回戦敗退 (黒川 0 - 2 仙台東)

○ウエイトリフティング部

宮城県高等学校総合体育大会
 男子 94kg級
 赤井和樹
 スナッチ第2位・C&J第1位・トータル第2位
 男子 +105kg級
 石川寿和
 スナッチ第3位・C&J第3位・トータル第3位
 東北高等学校ウエイトリフティング競技選手権大会
 男子 94kg級
 赤井和樹
 スナッチ第6位・C&J第5位・トータル第5位
 全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技大会
 男子 94kg級
 赤井和樹
 スナッチ第18位・C&J第8位・トータル第14位
 東北総合体育大会ウエイトリフティング競技会
 男子 105kg級
 赤井和樹
 スナッチ第3位・C&J第1位・トータル第1位

○ゴルフ愛好会

平成28年度全国高等学校ゴルフ選手権東北大会 個人
 男子の部 荒井龍之進 40位

2016 新人大会結果報告

○野球部

第10回秋季宮城県高等学校野球 北部地区大会
 1回戦 黒川 5 - 4 大崎中央
 2回戦 黒川 0 - 3 東北学院榴ヶ岡
 敗者復活2回戦 黒川 11 - 1 築館
 第5・6代表決定戦 黒川 8 - 0 岩ヶ崎

第69回秋季東北地区高等学校野球 宮城県大会
 1回戦 黒川 2 - 4 仙台高専名取

○サッカー部

地区新人大会
 黒川 2 - 1 岩出山
 黒川 1 - 3 古川工業
 黒川 0 - 1 鹿島台商業
 黒川 2 - 3 古川 予選リーグ敗退

○山岳部

県新人大会 出場

○バドミントン部

男子ダブルス 1回戦敗退
 男子シングルス 3回戦敗退
 男子団体戦 1回戦敗退 黒川 2 - 3 仙台育英
 女子ダブルス 3回戦敗退
 女子シングルス 2回戦敗退
 女子団体戦 2回戦敗退 黒川 1 - 3 角田

○卓球部

男子団体 県大会出場

○柔道部

男子団体戦 敗退
男子個人戦
60kg級 初戦敗退
66kg級 初戦敗退
100kg級 初戦敗退

○空手道部

男子個人組手 山之口亮太 ベスト16
男子団体組手 出場
男子個人形 出場
男子団体形 出場

○陸上競技部

走幅跳 佐藤匠太 決勝進出
400mH 工藤彩花 準決勝進出

○バスケットボール部

仙塩地区予選
予選リーグ 黒川 86 - 57 松島
黒川 14 - 206 明成
代表決定戦 黒川 56 - 64 泉

○ソフトボール部

黒川 2 - 13 常盤木

○テニス部

男子シングルス 藤枝 悟 ベスト16
阿部弘大 ベスト32
男子ダブルス 藤枝 悟・阿部弘大 ベスト8
早坂 樹・吉田智哉 ベスト16
男子団体 第3位
女子団体 2回戦(黒川 0 - 5 聖和学園)

○ウエイトリフティング部

男子 94kg級
庄子 義崇
スナッチ第5位・C&J第3位・トータル第5位
男子 +105kg級
石川 寿和
スナッチ第2位・C&J第2位・トータル第2位

○ゴルフ愛好会

平成28年度全国高等学校ゴルフ選手権秋季東北大会
男子の部 荒井龍之進 26位

2016 文化部コンクール等結果報告

○ロボット研究部

高校生ロボット相撲県大会
ラジコン型 優勝 黒川A
準優勝 黒川E
第3位 黒川B
第4位 黒川C
全国高等学校ロボット競技大会 県予選
優勝 ナト・ルト
第3位 くろごん
敢闘賞 くろかわんこ
全国高等学校ロボット競技大会金沢大会
出場 ナト・ルト
出場 くろごん
ロボット相撲東北大会
高校生の部
ラジコン型 1回戦敗退 黒龍青葉
1回戦敗退 フランケン
自立型 ベスト8 くろごん
ベスト8 くろかわんこ
全日本の部
ラジコン型 ベスト8 ナト・ルト
ベスト16 黒龍若葉
ベスト16 メカにゃん

○吹奏楽部

全日本吹奏楽コンクール第59回宮城県大会予選
第28回石巻・多賀城地区大会 高等学校の部 銀賞
第49回宮城県アンサンブルコンテスト多賀城地区大会
打楽器5重奏 銅賞
サクソ4重奏 銅賞
木管5重奏 銅賞
金管4重奏 銅賞
金管8重奏 銅賞

○美術部

第68回宮城県高等学校美術展
優秀賞 鈴木貴恵 山田華永
奨励賞 千葉美有乃
第33回泉・黒川地区高等学校美術展
優秀賞 郷内朝水 坪子愛花
奨励賞 若生天音 佐藤るな 鈴木貴恵 渡邊 愛
特別賞 佐藤るな 坪子愛花

○書道部

第33回ふれあい書道展
奨励賞 千葉結衣 櫻井 愛 千葉愛衣 鈴木れな
敢闘賞 10名
第64回川開書道展
特選 伊藤亜月沙
金賞 千葉結衣 千葉愛衣 鈴木れな
銀賞 4名
銅賞 6名
第32回全日本高等学校書道公募展
特選 千葉結衣
準特選 櫻井 愛
金賞 千葉愛衣
銀賞 3名
銅賞 4名
入選 4名

○囲碁将棋同好会

第40回全国高等学校囲碁選手権大会宮城県大会
個人戦 D組 優勝 松崎稜太

○写真愛好会

写真甲子園2016 初戦敗退
JAPAN PHOTO 2016春夏フォトコンテスト 30点出品

絆深める各支部の活動

仙台支部

仙台支部総会

年一回の恒例となりました平成二八年度仙台支部総会を二月九日、ホテル白萩(仙台市青葉区)において、会員一八名に山路同窓会長、母校からは事務局の丸山先生、加えて東京同窓会会長の渋谷豊樹さん(神奈川県在住)もご多忙の折り駆けつけていただきながら開催しました。

挨拶では、山路会長から、クラス懇親会では、終始和やかに、相互の近況や昔懐かしい在学時代等の思ひ出話の中で、同窓生の三嶋智子さんによる日本舞踊が披露されるなど花を咲かせての盛会でありました。

母校の益々の発展を祈念するとともに、一年後の再会を楽しみにして散会しました。

事務局 浦山喜与文

利府支部

平成二七年度 利府支部総会

去る平成二八年三月六日利府町役場、町民交流館に於いて総会を開催

いたしました。開会の冒頭、この一月に他界された前小幡支部長に黙祷を捧げての開始となりました。

当日は日曜日にも拘らず本部より山路同窓会長、及び丸山事務局長のご臨席を賜り、山路会長より祝辞と、丸山事務局長より在校生の進路状況やスポーツ大会における活躍状況等の現況説明を頂きました。

会議では佐藤支部長が議長になり、平成二五年〜二七年度に於ける利府支部行事及び決算書並びに監査報告が承認され、続いて二八年度の支部運営方針等について検討いたしました。今回の総会で見える限り

一、利府町「広報りふ」三月号に総会参加の呼びかけ

二、主な会員に対し、「はがき」による出席方要請

など種々手を尽くしたものの、会員の参加は皆無で結局本部役員と利府支部執行役員だけの出席となりました。

今後についても、創立一一〇周年発行の同窓会名簿以外に新たな同窓会会員の掘り起こしも難しく、会の衰退が明白であり、また、執行役員の高齢化と後継者不在の観点から会報配布の困難、及び、支部の継続が不可能と判断し、今後、同窓会本部に解消方法を委託し、二八年度末をもって解散する事の申し合わせをいたしました。

よって役員改選については、先の理由により年度末まで全員留任する事といたしました。

総会終了後は和風レストラン「まるまつ」に於いて会食し解散いたしました。

副支部長 鈴木 三郎

追伸 平成二八年六月一日(土)に開催された本部同窓会評議員会に於いて、議案が原案通り可決されたのち、その他の事項として、事務局より黒川郡を除く会員への会報の配布について郵送としてはとの意見があり本部役員で次回総会まで検討すること

で散会いたしました。

これを受け、利府支部として平成二八年発行の会報は従来同様配布い

たしますが、その後は後継者不在となり会報の配布はどうなるか心配です。

支部長 佐藤 耕造

多賀城・七ヶ浜支部

多賀城・七ヶ浜支部総会

今年の八月一日は祝日となつて初めての「山の日」を迎えました。(ふるさとの山に向かいて／言ふことなし／ふるさとの山はありがたきかな)

石川啄木の歌のふるさとの山は岩手山であったが、私たち黒川高等学校の卒業生のふるさとの山は校歌の一番にもある七ツ森となるのでしょうか。

盆近くの祝日とあつて帰省される方々にはありがたい休日でもあり、七ツ森の姿をなつかしく眺められたことでしょう。

幸い多賀城・七ヶ浜支部会員にあつては三〇分ほど車を走らせると「山の日」に限らずいつでも眺めることができます。逆に贅沢を申せば遠くにあつて思い描く山なのでしょうか。

さて、当支部はそんな盆も去り、やや過ぎやすくなった九月一日に総会を開催しました。支部設立当初の頃と違つて出席者が少ないのが残念です。懇親会などずっと初対面



であっても共通の話題で楽しく過ごせるでしょうが。

ご多用ながらこのたびも山路会長からご祝辞を賜り、丸山事務局長から母校の近況についてお話を賜りました。また、総会終了後、居酒屋「和み家」において懇親会が催され楽しいひとときを過ごすことができました。

事務局 菅原 市雄



大衡支部

大衡支部総会

研修視察と総会を八月二八日同日開催いたしました。前段の研修地は黒川地域行政事務組合が運営する環境管理センター（ごみ処理施設）の再建設工事を視察いたしました。



落合支部

落合支部総会

かに終了することができました。

事務局 跡部 浩一

「仙台の奥座敷 秋保温泉で開催」平成二八年度落合支部の研修会を兼ねた総会が、仙台秋保温泉「癒やしと至福の空間 ホテルきよ水」を会場に会員一七名の出席と本部長山路義明殿、支部顧問上野薫殿、大和田清一殿、高平清子殿のご臨席を賜り、六月五日(日)に開催されました。

支部長挨拶、祝辞に続き議長に千葉征次氏を選出、平成二七年度事業・決算報告及び二八年度事業計画・予算を審議、提案通り承認され、今年度も継続して母校を支援していくと

の確認がなされました。

総会終了後の懇親会は、談笑、カラオケによるご自慢の歌の披露など、大いに盛り上がり会員相互の親睦と友好の絆を深めることができました。また、帰りの車中では、終始在学当時の思い出話や、黒高生の活躍など話題は尽きることなく大変楽しい有意義な、そして何よりも心身のリフレッシュができた一日となりました。

事務局 大友 義昭

東京同窓会

東京同窓会総会

今年の東京同窓会定時総会は総勢二六名の参加を頂き、五月一日(日)新宿京王プラザホテルにて盛大に開催されました。本部よりご来賓として、堀籠日出子副会長様、丸山事務局長に遠路お越し頂き有難うございました。

総会では、会計報告、事業報告、役員改選等も承認され、新役員の紹介と挨拶で皆様への顔見せとなりました。

昨年は郷土の話題が大きく取り上げられた珍しい年でもありました。昨年九月の水害では母校も大きな被害を受け、その時の写真を囲み同行改めてその惨状に驚いていました。又、郷里を舞台にしたドラマ、



映画も大いに話題となりました。同窓生の中には映画の存在に気がつかれていな方もおり、「それじゃ帰りに映画館によううか」と誘いあっている方々も多くおられました。ぜひ多くの方々に観賞して頂き郷土の歴史を紐解いていく参考になればと思います。

懇親会では喉自慢が「オケ無し」で民謡を披露し、さすが先輩と聞きほれておりました。歌謡曲は唱えなくとも「お国」の民謡の一つは歌えないと世間は渡れぬと、つくづく思い知らされましたが、還暦を過ぎてからでは遅過ぎますか？

会長 渋谷 豊樹



東日本大震災に祈る

高橋 全隆 (昭和31年卒)

泣くのはいやだ、笑っちゃおう：だけ僕らは掛けない。「ひょっこりひょうたん島」の冒頭の一節。そのモデルの一つが岩手県大槌湾に浮かぶ蓬萊島、ハマギクが咲く灯台がある。私は平成二八年二月役場職員の間知 佐々木健氏より佛事の依頼があり、盛岡駅頭に立った。彼は出迎えて、大槌まで有料道路で一二〇キロ二時間五〇分の道程ですと。中間ほどに遠野市を通過した。あの柳田国男著『遠野物語』舞台の里である。彼は震災時、後方支援として大活躍をした。この有料道路と遠野市がなかったら、現在までの復興は出来なかったと感謝を語った。大槌町は人口一万五千ほど、震災で約一割が犠牲になった街である。特記すれば、役場で町長以下四〇人が亡くなった惨事は鮮明に記憶される。献花台に手を合わせて低頭した。

○明治二九年大津波『遠野物語』の記憶

月の光は明るかったが、海面には霧が布かれていた。足許もぼつと霞む、幻のような夜だった。波音を聞きながら歩いていると、霧の中に朦朧とした人影が浮かんだ。影は段々福二に近付き、やがてその輪郭をはつきりとさせた。影の主は寄り添った男女二人であった。福二は、そして我が目を疑った。女の方は、どう見ても津波で死んだ自分の妻だったからである。そんな訳はない。そして

「妻と一緒にいる男はどうやら福二が婿に入るまで妻が心を寄せていた男なのである。それは同じ里に住む男である。二人は互いに好き合っていたらしく深く心を通わせており、福二の婿入りがなかったら、夫婦になっていたかもしれない間柄だったとー 聞いていた。だが、その男もまた津波の難に遭って死んでいるはずであった。双方死人である。福二は呆然として一旦二人を遣り過ごし、それから思い直して跡を追った。もしかしたら妻は生きていたのかもしれないとー そう思ったのである。福二は二人の跡をつけて、遙々と船越の方へ繋がる岬まで移動した。二人が岬の洞窟に至った辺りで、福二は声を上げ、妻の名を呼んだ。呼ぶと、二人は立ち止まり、振り返った。やはり妻なのであった。妻は福二の顔を見ても驚くでもなく、こう言った。「私はー今はこの人と夫婦になっっているのです。」そんな馬鹿な話があるか、と福二は思った。「それは如何にも勝手だ。子供達が可愛くないのか。」そう言う妻は僅かに顔の色を変え、やがて泣いた。声も聞こえる。姿も見える。話もできる。生者として思えなかったから、福二は悲しく、また情けなくなつた。悔しさのあまり下を向き、己の足元を見ているうちに、妻と男は足早にその場を立ち去ってしまった。福二は少しだけ追い掛けたが、止めた。

柳田国男掌編『遠野物語』第九九話の一説である。渚で死者と生者福二とが出会い対面する場面を簡潔に描いた小品である。この大津波で福二は、妻と子供一人を亡くしている。生き残った二人の子供と元屋敷に仮小屋を建てて住み、一年ほどが過ぎたころの逸話である。彼は悲しみ、苦しみ、嫉妬の中で、妻と男とが天国で暮らす姿を如是よしと受け止め、許したのではないか。この一年ほどは、肉親の死を受け入れることができないようになった期間と言つてよい。われわれは家族を失う経験は、誰もが負うが、それを受け止め、解消するには。一定の時間が必要である。『遠野物語』で描き出す世界は、その体験を記憶の中に昇華して、語り継いでいく何とも味わい深いものがある。

○美谷島邦子日航機墜落事故遺族の心境

事故から三年目、新緑の中、朝もやのかかる四時一五分。私は、スゲノ沢近くの山小屋の寝袋を抜け出して、御巢鷹の尾根に向かった。うす暗い山道を鳥のさえずりを聞きながら、健の墓標に向かって駆けのぼると、朝もやの中にゆっくり朝日が昇ってきた。小さな感動が私を包んだ。それまで幾度となく御巢鷹に登ってきたが、見てきたのは、夕日のなかの茜雲と満点の星空だった。この日、御巢鷹の尾根に昇る朝日は、新しい明日を力強く運んでくれた。『御巢鷹と生きる』頁一五一

美谷島さんは、悲しみ、苦しみ、喪失感が三年目あたりから少しずつ明るく日常の平常心を取り戻しつつある様子が見え、五年目の心境はどのように変化し、悲しみを解消していたのだろうか。彼女は語った。私はといえば、この頃すごく不思議なことがあった。事故から五年が経ったある日のこと。前橋(群馬県)に出かけるため、新幹線に乗った。いつもなら、新幹線を見ると、乗り物好きだった健のことを思い、すぐに涙があふれた。でもその日は違っていた。二階建ての新型新幹線を見て、健の知らない新型だと思つた。そして、「健ちゃん、ママと一緒に乗ろうね」と呟いた。その時、私の心の中にストーンと健が入った。その日から、健は私いつも一緒にいる。心の中で生きている。そう思うことができるようになった。事故後二、三年は、この仏壇やお墓がなければ健は戻ってくると考えた。そばにいつも一緒にはいなかった。しかし、五年目その日からずーっと一緒にいる。いつも一緒にいる気がする。『御巢鷹と生きる』頁七三

五六分頃に群馬県上野村近くの山中に墜落した。重傷を負いながら救助された四名を除く五二〇名が死亡するという航空史上最悪の事故となった。美谷島邦子(六九)さんの次男健ちゃん九歳、小学三年生。初めての飛行機に乗り一人で旅に出た。その年の夏休みにプールで二五メートル泳げた。そのご褒美として、彼女の弟家族が住んでいる大阪までの冒険の旅をすることになった。いとこたちと阪神電車に乗ったり、甲子園に高校野球を見に行くことを考えてわくわくしていた。やわらかな蕾のまま逝った健、祭りばんてんを着た健が鈴を鳴らして山車を引く。その後ろ姿が、今も鮮明に浮かんでくる。

○石巻市大川小学校の惨事 三

石巻市、山と川に挟まれた低地、河口から四キロ上流に東日本大震災で一〇メートルもの津波が襲った大川小学校があった。震災時、大川小五年生だった只野哲也(二六)は、石巻工業高校に進み、柔道部で練習に励んでいる。五年半前、地震発生から約五十分後校庭に残った児童と教職員は移動を始めた。防災行政無線が大津波警報を流し、「海岸付近や河川の堤防に近づかないで」と促す中、北上川の橋のたもとへと向かった。哲也は津波が前から襲ってくるのを見て、とっさに逆方向へ走り、山をよじ登った。後から津波の強い衝撃を受けて気をつけた。斜面に打ち上げられて助かった。助かった児童は哲也ら四人と教員一人計五人。哲也は三年生だった妹(九)と母(四二)と祖父(六九)も失った。

語り部元中学校教諭佐藤敏郎(五二)は、震災時、彼が学校にたどり着いたのは三日後の朝。ブルーシートの下に、泥だらけの子どもたちが横たわっていた。佐藤の次女の姿もあった。全校で七四人の児童と教職員一〇人が犠牲になった。平成二五年一月東京で「大川小の惨事を考える催」に父親の英昭(四五)と哲也は参加した。中学校の制服姿で教育関係者ら約九〇人の前で、地元で唯一残る大川小の校舎を守りたいと訴えた。「あの校舎を壊したら、あそこは一体何だったんだとなってしまう」「こういう思いはもう誰にもしてほしくない。このことを伝え、千年後まで残したい。」それに共感した上級生も校舎保存を訴えた。さらに哲也は、「災害で一人でも多くの命が救えるように記憶を風化させずに語り継いでいく。これからの防災に校舎は絶対に必要になる。」と語った。

遺族以外の語り部の一人、畠山卓也(六三)は震災時、大川小の対岸にある北上中学校の校長だった。地震発生後、高台にある北上中で避難者の受け入れの準備をしていた頃、川向かいでは惨事が起きていた。「自分があつた場にいたら、子どもの命を守れたらどうか。全国の教員に一度でも来てもらい、自分の問題として考えてほしい。」と畠山は話す。大川小にいた教職員は子どもの命を救えたのか。児童三人の遺族は「津波の危険性は予想できた」、市などは「予想できなかった。」と裁判で争い、判決は「一〇月二六日には出る。佐藤は「大川小で失われた命が未来に少しでも意味を持つように、すべての人にとって『三・一一』が自分

事になるような伝承のあり方を語り合いたい」と話す。

平成二五年二月、第三者検証委員会が発足した。一年後、最終報告書をまとめた。児童らの命は救えたはずだとして、学校防災に関する「二四の提言」を盛り込んだ。だが「五一分間の謎」の解明は「踏み込みが甘い」と遺族たちを失望させた。なぜ校庭から数分で着くシイタケ山に避難しなかったか。なぜ児童の一人が「山に逃げよう」と言った声を無視して闇に葬ったのか。なぜ校庭にとどまること約五一分後、北上川の橋に向かつて移動したのか。なぜ大川小に大きな津波はこないかと過小判断をしたのか。遺族たちは「なぜ」への答えがどうして解明されないのか。処罰感情を沈静化させるのは、こうした検証があつて初めて出来ることだ。生き残った人の感情は、それぞれ違うが裁判で白黒がついたからといって、悲しみの心が癒やされるものではない。飛行機事故の七〇パーセントは、ヒューマン・エラー誤作動によるものとされる。人間の判断ミスは防ぐことはできない。刑事や民事訴訟など司法の場で判断するだけでは真実は見えてこない。市も遺族も学校は安全なところと信じている。にもかかわらず司法によって裁かれた「勝者」と「敗者」の関係になってしまふと有効な再発防止策や未来への教訓は生まれてこない。処罰が優先される犯罪とヒューマン・エラーによる事故とは違う。安全である学校で、あの惨事は想定外でも二度とあつてはならない。震災から再発防止策や未来への教訓が生まれることを望んでいる。遺族たち

ちは、心おきなく亡き人のことを語れる祈りの場所を早くつくりたいと切望している。

○津波でんでんこ 御巢鷹と祈る

自然災害、事故、犯罪、病、どんな理由でも、肉親や愛する人を喪失した時の悲しみのプロセス経過は共通していることが多い。大災害はいつ、どこで、だれもが起るかもしれない。

夏。八月二日、群馬県上野村。登山口から御巢鷹の尾根へと向かう山道に登山者が連なる。石巻市の紫桃隆洋(五二)は今年も黄色いひまわりの花束を背負ってきた。山道を三十分。視界が開けた。尾根に立つ「昇魂之碑」に花をたむけ手を合わせる。もう一つの花束を抱え、斜面に続く道を行く。一人ひとりの名前に合掌。あれから三一年。紫桃が向き合う墓標にはこう書かれている。「故 美谷島健 享年九歳」。ひまわりを供え、線香に火を灯す。祭壇にはミニカーや電車、野球のボール。「昇魂之碑」の前に戻った紫桃に、美谷島が声をかけた。「今年も来ました」そう言う紫桃に美谷島は涙で声をつまらせながら笑顔で答えた。「言葉はいらないね」互いにここにいるだけで、祈るだけで心は通じ合う。紫桃の次女千聖は大川小三年生で犠牲になった。「この碑の一人ひとりに家族がいて、その家族たちに思いがあつて、みな悲しい思いをして、人生が変わつて。人間は一人じゃないんだよね。この場所だからこそ、語り伝えられるものがある。壮大な山の自然、懐の深さが人々のあらゆる思いを受け入れてくれるようなー」。『不思議な場所です』と彼は感慨無量になった。紫桃は、なんの約束もせずたどり着いた村内の宿舎で偶然に美谷島と巡り合う。しばし二人で語り合った。娘のこと、大川小学校のこと、なぜ安全であるはずの学校で、子どもたちが犠牲になった。美谷島はじつと聴き人だったという。「大川小の校舎もこういう場所になれたら、家族で訪ねて来て、何が起きたかを語り伝えていく、祈りの場所に」紫桃は未来を語った。文部科学省が第三者検証委員会を設置した。その委員の一人が美谷島邦子だった。彼が御巢鷹を訪ねたのはその後だった。慰霊の日に向け、尾根の一端では日航の社員が登山道の整備に当たった。「日航と遺族とが安全の扉をいっしょに開きたい」「この山は、だれでも登ることが出来る。私もそうだし、みんなそうなんです」と美谷島は語る。この山には命を思う人々が集う。名取市関上の丹野祐子(四七)もその一人だ。長男、公太は中一だった。あの日、大きな揺れの後、長女とともに自宅の隣にある公民館のグラウンドに避難した。津波が見えたとき、丹野と長女は公民館の二階に逃げたが、少し離れた場所ですッカーをしていた公太の姿が見えなくなつた。発見されたのは一七日後だった。関上では住民約七二〇〇人の一割以上が犠牲になった。石巻市佐藤美香(四二)長女愛梨、西城江津子(四二)次女春音ともに小学校入学を控えた六歳だった。あの日、大揺の後、園を出発した送迎バスは海側の低地を回り、園への坂道を上がるところで津波に襲われた。日和幼稚園の送迎

バスに乗っていた愛梨五人が犠牲になった。大崎市から訪ねてきた田村孝行(五五)と妻の弘美(五四)は、長男健太(二五)は七十七銀行女川支店に勤務していた。港の前にあった二階建ての支店は津波にのまれた。屋上に避難した行員一三人が流され救助されたのは一人。約半年後、海で健太は見つかった。健太は高校球児で、県大会でベスト八まで勝ち残った好捕手だった。今年も野球ボールを携えてきた。あの健ちゃんに供えるために。

各地の震災の遺族たちが集まつて語り合った。

「これから生きて行く道は、美谷島さんが歩んできた道なんだ」。八月、御巢鷹山で各地から人々を迎え、美谷島は語った。「震災も事故も同じですよ。やはり安全。命を守るということ。みんな一緒に安全の鐘を鳴らしたい」「昇魂之碑」の前にある鐘の上には、「空の安全を祈つて」の言葉が掲げられている。各地から訪れて来た遺族たちが、いっしょに聞いた鐘の音は、御巢鷹の尾根に高く遠くへ響きわたった。

合掌



同級生大畑兵馬氏、佐々木末治氏、大槌町佐々木健氏には写真撮影や資料収集などでお世話になりました。心から謝意を表します。

参考資料

『遠野物語』柳田国男 掌編
『御巢鷹と生きる』美谷島邦子著
『朝日新聞』記事でんでんこ(二六・八二)

同窓生の集い

傘寿で最後の同級会

普通科 第五回卒業

私たちは昭和二七(一九五二)年入学、三〇(一九五五)年卒業の五回生です。傘寿を記念し八月末に最後の同級会を開きました。当時の学級編成は農業科二学級、普通科、家政科各一学級でした。私たちは普通科で三ホーム(H)です。同級会は家政科(二四H)の有志の方々に参加していただき、合同の形をとりました。参加したのは二三H一三人、二四H三人だけでした。二三Hだけを見ますと卒業五三人中死亡一四人、体調不良(加療中を含む)が一三人もいました。



会は澁谷隆朗君の司会で始まり、

黙祷、小生の挨拶、そして同級会に初参加の早川満夫君の乾杯の発声で懇談にはいりました。当時は戦後まだ日が浅く、貧しい時代でした。食糧難で空腹だったこと、真冬でもオーバーなして過ごしたこと、一〇数キロの砂利道を自転車通学したことなどの思い出話が尽きませんでした。初参加の杉本好彦君は疎開者だったこともあり、大変苦労しました。三年次のインターハイ熊本大会陸上競技に佐々木周行君(故人)、桜井省三君(体調不良で欠席)、瀬戸接男君が出場した事です。瀬戸君が思い出話してくれました。貧しくはありましたが、楽しくもあった高校生活でした。ただ気になったのは出席した一三人中一人暮らしが四人もいたことです。

私たちが在校時は戦後の日本の歴史の中でも特記すべき時代です。朝鮮戦争の真ただ中で日本は漁夫の利という戦争特需で潤い、経済復興の足掛かりを掴みました。また、自衛隊の前身の警察予備隊も戦争と同時に発足しました。同級生の何人かは入隊しました。当時の首相は吉田茂(麻生副総理の祖父)で、「自衛のための戦力は憲法九条に違反しない」と発言し、あとで取り消しましたが、この発言は今に引きずっています。

ラジオドラマの「君の名は」は高校二年次に映画化され、空前のヒットになりました。映画黄金時代の幕開けです。歌の世界も花盛り、NHKの紅白歌合戦は昭和二六年から始まっています。激動、そして混沌とした時代でした。

最後の同級会にしたのは訳あります。多少残っていた繰越金を費消するためです。それでもわずかばかりですが残りましたので、同窓会で使ってください。

内ヶ崎(吉川)末雄

昭和三十七年卒同級会

今年も、同級会は一〇月二三日、一四日の二日間気仙沼市大島方面に旅行をしました。東日本大震災から五年半、南三陸町、気仙沼市の復興の状況を視察し、唐桑半島では巨釜半造の折石、はまぎくの群生はとて



もきれいでした。

フェリーボートで大島に渡り、亀山、龍舞崎の展望は素晴らしく、津波体験館を見学し改めて震災の被害の大きさに驚きました。復興工事も着々と進み、大島への架橋工事も平成三〇年度完成見込みとのことでした。

二日間とも晴天に恵まれ、楽しいドライブ旅行でした。夜の懇親会では楽しい語らいと、再会を約束し別れを惜しみました。

熊谷喜久雄

六四H(昭和四三年度卒)同級会

昭和四三年度卒の我が六四ホームも、早いもので卒業後四八年目を迎える状況となりました。また、年齢も六六歳と六〇代後半に入ることと、平成二二年の還暦同級会から六年の時間経過の中に東日本大震災があり、その被災程度や近況情報交換も含めて、六年ぶりの同級会を開催しました。

同級会は一〇月二三日・二四日に松島町のパレス松洲として、六月に案内発送し、多くの仲間に出席頂ければと願っていましたが、年齢や仕事の関係などで一八名の出席による開催となりました。

当日は午後三時からの受付でしたが、午後四時にはほとんどの出席者が会場に到着し、午後六時からの開催まで男女の部屋での談笑など(推測、詳細不明?)で過ごしました。六時前に会場に集合し、全員で記念写真を撮ったのち、物故者(新たな方一名を含み合計四名)に黙祷を捧げてから挨拶、乾杯、懇談へと移っていきま



ていきました。還暦時に開催してから六年半ほどの時間経過がありました。開会後間もなく約五〇年の時間移動により高校時代に帰ったように、和気あいあい、和やかに楽しく過ごすことができました。会場最後には高校三年生を皆で肩組み、合唱となりました。また、一次会終了後は幹事部屋での二次会にも全員が参加し、時間を惜しんでのお開きとなりました。

千坂 賢一

インターハイに出場して

ウエイトリフティング部 赤井 和樹

私は高校に入学した時には、何部に入ろうかと悩んでいましたが、何か自分を変えたいという思いからウエイトリフティング部への入部を決めました。ですが、ウエイトリフティングがどのような競技なのかよく分かりませんでした。最初のイメージでは、ただ力任せにバーベルを持ち上げるのかと思っていました。そのため練習を始めてもなかなかうまく挙げることができず大変でした。

六月には県総体があり、初めて出る大会でとても緊張をしていましたが、結果は八五kg級第三位でした。まだまだ一位、二位の先輩たちとは、かなり差がありました。その先輩たちの試技を見てみると、力だけではなく、身体の使い方、スピードなど自分にはないものが多くあり、とてもすごいと思いました。そのときに自分が三年生になったらその先輩たちみたいになりたいと強く思いました。それから練習ではそのようなところを意識しながらやっていき、自分の記録が少しずつ伸びていくのが楽しくなっていました。ですが、怪

我をした時から記録が伸びず大会でも失敗をしていくことがあり、自分の中でとてもつらい時期がありました。しかし、顧問の先生の指導や、他校で行われた練習会での同階級のライバルとの刺激もあり、そこで何か自分の中で吹っ切れたものもあり、記録がさらに上がり、とてもうれしかったです。

ですがインターハイの出場のかかる県総体の二ヶ月前にケガをしてしまい、とても焦りを感じ大会に出場できるのかとても不安になっていましたが、先生や後輩たちのサポートにより焦らずゆつくりとケガを治していきなんとか大会に間に合いました。その県総体では自己新記録に成功し、インターハイ出場を果たすことができました。先生や両親、後輩もとても喜んでくれました。そして、県総体のあとすぐに東北大会がありました。初めての県大会以外のことや自分の体調管理をうまくすることができず、記録を伸ばすことが全然できませんでした。このままではインターハイの時も、雰囲気

などに飲まれてしまうと思い、自分の体調であったり、精神面などの気持ちを鍛えてインターハイに臨みました。インターハイでは、自分のこと、これまでの練習を信じてやりました。その結果、県総体の時よりさらに自己記録を更新し、種目別のクリーン&ジャークでは、第八位入賞をすることができました。

一年生の時には想像もできなかった全国大会で入賞できたのは顧問の先生、両親の支えがあったからです。私はこの三年間のことは一生の思い出だと思います。この三年間学んできたことを、これからの人生に生かしていきたいと思っています。まだまだ先のある後輩たちがいるので、その後輩たちには自分を超えていってもらい、楽しんで競技を続けてもらいたいです。

短 信

◆渡辺 和(昭和16年卒)

九二歳を過ぎると体の動きも良くなく、現在デイサービスに通所しています。とても懐かしく同窓会報を拝読しています。

◆石川 正允(昭和31年卒)

同窓会にはここ数年欠席していますが、現在体力健康維持のため、スポーツ吹矢、ファミリートニス、将棋等でマイペースの生活を送っています。

以前より全クラブの状況を知りたいと思っていましたが、それが今回見ることででき非常に楽しく拝見しました。これからも在校生の活躍を大いに期待しています。

◆高橋 全隆(昭和31年卒)

「世のため人のために」になることをつとめて活動しています。具体的には静岡県三島伊豆国分寺誌の調査研究、編集に務めています。私は母校黒高愛、同窓生愛、ふる里愛の三愛を三柱にして、黒高同窓会を考えております。その指針を明確にして今後の活動運営を進めていただくことを要望します。

◆今野 たい(昭和38年卒)

二〇一六年は七二歳年女ですが、保育士としてまだ働いています。若い先生と子供達と楽しくすごしています。

昭和三十八年卒、○四H、○五H

の皆さんお元気ですか。遭いたいですね。

いつも楽しみに読んでおります。黒高生の活躍には驚くばかりで会報が届くのが待ちどおしいです。私の本家の大友勝衛副会長の活躍も楽しみに会報を読んでおります。

◆高橋 悦男(昭和39年卒)

現在、石巻、東松島、女川、南三陸地区の災害復興工事、女川原発の防潮堤、女川魚市場、石巻赤十字病院、南三陸病院、女川まちづくり、各地区漁港の護岸工事に携わっています。

在学当時のあの黒高が、工業系学科に改編され、学校のイメージがどんどん変わっていく会報内容を見て驚いています。

お門違いの情報になりますが、これまで係わってきた楽天コボスタ宮城、今年は天然芝になって、梨田監督采配でニューヒーローが生まれるか？王者ソフトバンクを打倒できるか？その裏表、エピソードを添えて情報としたいが如何？

◆板橋 昭房(昭和47年卒)

同窓会報第五九号を受け取りました。同会報の「短信」に掲載がありました。大変お世話になりました。誠にありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

同窓会東京地域の状況等を、なるべく多くお知らせするよう進めていこうと思います。



◆事務局からのお知らせ

●平成二九年度は、同窓会総会が開催されます。八月前半を予定しておりますので、多数のご出席をお願いいたします。なお、日程等の詳細は市町村の広報へ掲載をお願いする予定です。

●同窓会報の配付方法について

評議員会報告の欄でも述べましたが、各支部で会報の配付が困難になつてきているとの報告が、複数の支部から寄せられています。また、個人情報保護法が施行されてから、住所等を登録しない会員もおります。

そこで、同窓会報の配付については、今後、送料を自己負担していただき郵送するなど、配付方法の見直しが必要となつてきておりますので、よりよい方法を模索し総会へ諮つていきたいと考えております。

●第五回卒業生同級会から寄贈

平成二八年九月五日に、第五回卒業生同級会(普通科三三H)の皆様より同窓会会計へ「七,〇〇〇円」を寄贈いただきました。

●同窓会報に掲載いたしました記事の氏名に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。(敬称略)

第五九号「支部総会」

大衡支部事務局 大友義昭(誤)

↓ 跡部浩一(正)

落合支部事務局 跡部浩一(誤)

↓ 大友義昭(正)

第五九号「短信」

昭和四七年卒 板橋明房(誤)

↓ 板橋昭房(正)

号数不明

昭和三年卒 石川正充(誤)

↓ 石川正允(正)

◆教職員の異動(平成二八年三月末)

○主幹教諭 吉田 充

(古川工業高)

○教諭 瀬戸 正博

(大河原商業高)

○教諭 小林 伸

(泉高)

○教諭 富村芽久美(利府支援)

(教育庁高校教育課)

○教諭 前田 宏美

(県経済商工観光部)

○実習講師 柳沢 秀行

(石巻工業高)

○実習講師 辻谷 賢(工業高)

○主事 大高 広幹

(教育庁文化財保護課)

○主事 渡部 真保(落合小)

◆事務局からのお願い

同窓会報への寄稿を募集しています。同級会開催の案内(日程・問い合わせ先等)や同級会の報告、叙勲

旧被服室解体



旧被服室東側



旧被服室西側



解体後更地



解体工事中

同窓会館北側にありました旧被服室(昭和四〇年前後に建設)が老朽化のため、一〇月一七日から解体工事が行われ、思い出の残る施設が取り壊されました。

編集を終えて

事務局長を担当することになって、二年目になりました。今回の第六〇号から一部ではありますがカラー頁を導入いたしました。今後も見やすい紙面の作成を心がけてまいります。

事務局として各支部で行われている支部総会へできるだけ出席させていただき、各支部の活動や課題などを伺っております。それらの情報を把握し、他の支部へ情報提供を行っていきたく考えております。

事務局長 丸山 英臣

の情報などがありましたら事務局までお知らせください。

・様式は不問です

・「氏名、卒業年、住所、電話、掲載してほしいこと」をお知らせください。

・連絡方法・・・郵便、FAX

・連絡先

宮城県黒川高等学校 同窓会

事務局長 丸山 英臣

千九八十一三六八五

宮城県黒川郡大和町吉岡

字東柴崎六二

(電話)〇二一三四五一二七

(FAX)〇二一三四五一二七